

生活に彩を添える木の魅力

木工ノニネ

■家具職人 order&original furniture

東温市北方、医王寺を曲がった先に工房を構える木工ノニネ。野中祐生さんと真由美さんは、木がもつ本来の温もりを、独自のセンスと技術で表現したオーダー家具を製作する。注目するのは、去年製作したモダンインテリアのポットスタンドだ。



Profile

野中 祐生さん (40)
真由美さん (36)
ゆうき・まゆみ
オーダー家具を製作する祐生さんとカメラマンの真由美さん。



Sサイズのポットスタンドは5号鉢を入れる。木の種類はメープル、オーク、ホホワイトアッシュ、ブラックウォールナット、さくら、ヒノキの6種類。写真はオーク「プレーン」。



野中さんの作業場は自宅前の工房。小高い丘に建てた工房から見えるのどかな空気感は、創り出す製品にも表れている。

イメージしたのは見た目も
楽しい、贈り物にもできる
少し贅沢なポットスタンド。
多少値段が上がっても、生
活の質を高めてくれる製品
を目指した。「初めに作った
4本足は全然納得いかなか
く。ポットを置いたときにど
うしてもガタガタしてしま
います。妻と意見を出し合
い、作り直しては相談しての
繰り返しでした」。試行錯誤
の末に現在の形が完成した。
特長的な3本足で機能性を
持たせ、しなやかな曲線から
は優しさを感じられる。塗
装にも思いを込めた。「オイ
ルフィニッシュの製品もあり
ますが、ヒノキ本来の淡いピ
ンク色を感じてほしくてソ
ープフィニッシュで仕上げてい
ます」。

「愛媛県はヒノキの生産量
が日本有数です。でも県内
流通は少ない。せつかくの産
業だから少しでも僕たちの
ような家具屋がもつ技術で、
木の魅力を知っていただけ
たいなと思います」。思わ
ず触れたくなる素材感のあ
る家具は、きつと私たちの生
活に彩を添えてくれる。

屋号の「ノニネ」は野中さんの造語。「『和も感じられるし、北欧っぽくもあるね』
と言われることがあり、響きも印象的で、自分の作風にも合ってるかなと思う」。



秋にはもみじ、春には東温市の花「さくらひめ」を飾りたい。



ヒノキで作られたポットスタンド。通常の「プレーン」と藤を巻いた「ラタン」の2種類。上下どちらでも使えるよう機能性を考えた。写真はヒノキ「ラタン」。



現在はトレイを製作中。他の製作事例は野中さんのInstagramで。
(@mokkou_no.ni.ne)

「販売店の仕事に就いて、
そこから家具に興味を持ち
始めました。普段使う家具
だからこそ、生活に華やかさ
を添えるものでありたいで
すよね」。スーツを着る仕事
は自分には合わないと感じ、
一念発起して家具製作の仕
事を目指した野中祐生さん。
専門学校で学んだ経験のな
い野中さんが訪れたのは、家
具の本場、岐阜県北部に位
置する飛騨高山。匠の技が
今も息づく地で木材や塗装
など家具についての理解を深
めた。その後、故郷である
愛媛を仕事の拠点にした。
製作する家具はベッド、ド
ア、テーブル、ツールなど
幅広い。ポットスタンドは昨
年度愛媛県が実施した「地
場産品モダンインテリア参
入事業」で作られた製品だ。